本講演は、親や保護者が感染症から子どもの健康を守るために知って欲しい情報を提供し、小児感染症に対する理解と実践を促す内容です。具体的には、乳幼児から学童期にかけて頻繁に見られる感染症と予防接種を含めた予防方法に焦点を当てました。

日常生活で遭遇しやすい風邪の症状とその原因となるウイルスについて説明しています。風邪を引き起こすウイルスは 200 種類以上存在し、細菌感染症に対して効果のある抗菌薬（抗生物質・抗生剤）はウイルス感染症である風邪に対しては効果がないです。

小児に問題を起こす感染症の中から、4 つのウイルス感染症と 2 つの細菌感染症に関して解説しています。

風邪ウイルスの一つでもある RS ウイルスは、乳幼児にとって怖い感染症を引き起こします。生後 6 ヶ月未満の赤ちゃんや早産児、先天性心疾患を持つ、あるいは免疫不全の子どもなどは、特に重症化しやすいグループです。RS ウイルスによる疾患は、高齢児や成人では軽症で済むことが多いものの、特に初感染の乳幼児では急性細気管支炎や肺炎を引き起こし、入院治療を必要とすることが多いです。一般的な感染予防策でもある、手洗いの徹底、マスクの着用、人混みの回避などが有効です。

最近、RS ウイルス感染症を予防する 2 つの方法が話題になっています。妊娠中の女性に対して RS ウイルスに対するワクチン（母体ワクチン）を接種することで母体で産生された RS ウイルスに対する抗体が胎盤を通して胎児へ移行することで、生まれてくる赤ちゃんを RS ウイルスから守る効果があるとされます。また抗体そのもの（モノクローナル抗体）を生まれてきた赤ちゃんに直接接種することで RS ウイルスから守る方法もあります。

その他、エンテロウイルス、麻疹（はしか）、水痘（みずぼうそう）、百日咳、肺炎球菌による感染症の特徴、感染経路、予防方法についても解説しています。特にワクチン接種は、接種された個人を守るだけではなく、集団免疫を獲得するためにも大変重要です。

大宜見　力